『九』 デモクラシーか勞働階級の獨裁か

よく〳〵頑迷不靈な人間でない限り、哀れなデモクラシーをイヂメたと云つて露西亞革命を批難することが出來ぬことは明かである。デモクラシーとは、具體的に云へば資本の支配のことである。此觀念は、資本家が安んじて民衆に政治を論ずる自由を與へてゐられるほど、しつかりと民衆の心に喰込んでゐる。けれども單に政治を論ずるより以上の自由を認めるデモクラシーは、近世史の上に未だ見られない。實際民衆が單に政治を論ずる程度の自由に甘んじて居ればとにかく、一歩進んで自ら政治問題を決定する權利を行使しようとすれば、デモクラシーは突如として姿を消す。近代のデモクラシーは、資本家的寡頭政治の假面にすぎない。

またデモクラシーは、抽象的に云へば、人民の大多數の支配を意味する。然し無產階級は、人民の大多數の承諾なき限り、……してはならぬといふのは愚である。何故ならば、資本主義の國家は、大民の人多數が……に左袒するまで、デモクラシーを放置しておく筈がないからである。資本家に依て極度に酷使されてゐる男女勞働者は決して十分に政治的權利を行使することが出來ない。もしそれが出來てゐたら、ブルジョア階級は、勞働者に民衆の大多數の意思を遂行させるよりは、思ひ切りよく議會を叩き潰してしまつたであらう。けれども……、平和的な宣傳運動だけで、民衆に自己の力を確信させることは出來るものでない。唯だ……のみ、勞働階級の前衛は民衆を率ゐてゆくことが出來るのである。

革命とは、一階級が他の階級に對して自己の意思を强制することを意味する。ところがカウツキー一派が革命を認める條件はかうである。即ち革命は其意思をブルジア階級に强制してすよい、けれども同時に、言論出版の自由や憲法會議に依て、ブルジョア階級にその不平を訴へる機會を與へる義務がある、といふのである。戰に勝つか負けるには頓着なしの、此單なる理窟屋の注文に抽象的に贊成して見た處で、革命は別に損害を蒙りもすまい。けれども革命はこりも直さず內亂である。即ち階級と階級とは、互に……で闘ふのであつて、大見得を切つて雄辯を揮ふことではない。革命は敵と議論を交へるものでなく、敵を亡さうとするものである。反動革命としても同じことで、此の場合敵味方ともに、獨逸議會の規則を守らぬといふ批難は甘受するに相違ない。

『一〇』 ソヴィエット――勞働階級の政治形式

……露國革命は、單に反對階級に打勝つに必要な闘爭の經路を示したばかりでなく、如何にして打勝つたかといふ方法をも示したものである。無產階級の獨裁は、歐羅巴ではどんな形を執つたらよからうか。露西亞革命は之に答へて、ソヴィエット――即ち工場、都市、地方、及び全國の勞働者の代議制度こそ、歐羅巴の勞働者の支にする組織であると云ふ。ソヴィエットの思想は實に簡單明瞭なもので、歷史そのもの、力より外には、かういふ結晶體は作れるものでない。資本の奴隷たる勞働者の働いてゐる工場は、無數の糸によつて、他の幾百幾千の工場とつ更に其地方全體の經濟生活と結び合はされてゐる。工場は其地方の輸送機關、同じ產業部門に屬する他の工場、及びながれ、最後に全國の經濟生活との間に密接な關係をもつてゐる。そこで工場の代表者は經濟的政治的代表者であり、國家的機能の細胞である。隨つて一地方の無產者の代表者は、同時に其地方の經濟的管理者をも兼ねてゐる。彼等は全國の勞働者の要求に依てその政策を決定されると同時に、その政策の一般的な性質をとり、地方行政の標準となして法律に制定する。隨つて彼等は地方勞働者の意思を基礎としながら、無產階級全體の利益を圖つてゐる譯であるが、れと同じく、勞働者の代表者から出來てゐる全國的な經濟委員會も亦、地方的な經濟委員會が一地方の利益を偏重せぬように注意し、地方の利益を全國の利益に從屬させる機關となつて居る。

露國革命の進行中。サンディカリズムの長所と創造的な所とが分ると共に、その中產階級的な、局部に偏する弱點もまた明白になつたのである。

勞働者が一旦工場の主人となると、小ブルジョア的になつて自分達の工場の利益ばかりを考へ、社會全體のことを閑却し勝ちである。工場の經濟委員會も亦、諸產業部門の利害を代表する。けれども是も亦、勞働階級全體の一般的